

インターバンクの声（2015年6月25日）

ギリシャ問題には、もう“うんざり”と思っても、ユーロ圏のギリシャ支援に関わる国々、特に債権団の人たちにとっては禁句なのだろう。何日までに合意がなければとか、この日が山場になるとか言っても、結局は妥結・合意は延期と持越しが続くばかりにも見える。先週の今頃は、確か合意も近いとの観測もあって、ユーロが堅調になっていたはずだが、昨日は懸念が高まり、周辺国国債利回りが上昇、反面ドイツ国債や米国債利回りが低下している。米国の株式市場もギリシャ支援協議の難航に嫌気して下落している。こうした状況を踏まえれば、せっかく124円台中盤まで上昇していたドル円も、一旦利益を確定させるためにドルを売らざるを得なかったのだろう。ギリシャが債務不履行に陥っても経済的な影響は限定的だとの観測がもっぱらだったが、ここに来て、そうした楽観的な見通しに対しても慎重な見方が増え始めた。リーマンショックの時も、ギリシャ問題が発覚した時も、市場は大した影響はないはずとの見方が大勢だった。ギリシャ協議が上手くまとまるのが理想だろうが、そろそろ真剣にデフォルトに陥ってしまった時のリスクを見直しておくべきだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。